

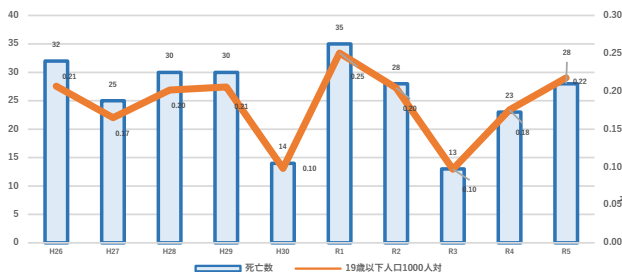


山梨県予防のための子どもの死亡検証体制整備事業（CDR）

CDR事業の経緯

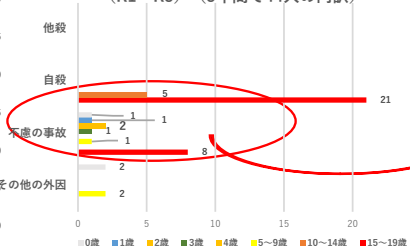
●「成育基本法」「死因究明等推進法」の成立により、R2年度から子どもの死亡検証を行い、尊い子どもの死亡を防ぐ国の「予防のための子どもの死亡検証体制整備事業」チャイルド・デスレビュー（CDR）が開始し、山梨県も参加し事業を推進しています。

本県の死亡数・死亡率の推移（0歳～19歳以下）（人口1000対）



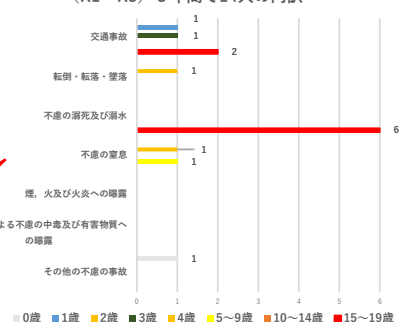
年齢階級別「傷病及び死亡の外因」の内訳

（R1～R5）（5年間で44人の内訳）



年齢階級別「不慮の事故」の内訳

（R1～R5）5年間で14人の内訳



- ・全国では、子どもの死亡は漸減していますが、山梨県では、10年間の平均で26名の子どもが死亡しており経年で見ても横ばいです。
- ・このうち予防可能な死亡（交通事故、溺死、転落、自殺等）で平均10名が死亡しています。
- ・つまり、3年間で学校の1クラスの子どもの予防可能な死亡をしていることになります。
- ・予防策を検討して施策につなげ、子どもの尊い命を守りましょう。



CDR事業の流れ

データ収集

対象：死亡した18歳未満の子ども
（国のてびきの改正により、R3年9月以降の死亡事例から遺族の同意を取得しています）

- ・死亡調査票
- ・死亡小票
- ・追加情報（学校、市町村、保育園、消防署、警察、児童相談所 等）

検証委員会

- ・個別検証
- ・概観検証

予防策の検討

- ・予防策の有効性や実現可能性を検討
- ・報告書を作成し知事に報告

予防策の施策へ反映等

- ・R6年度CDR推進会議へ予防策を報告し施策への反映方法を検討
- ・検討された予防策を実施

予 防 策（令和6年度検証結果）

●交通事故による子どもの死亡をなくす取組

- ・交通事故防止に向けた普及啓発、ひとり親世帯に対する遠方の病院受診の支援等

●乳幼児の安全な睡眠環境を整える

- ・SIDS予防の強化等

●周産期の医療体制の整備

- ・妊婦がいる家族への支援のための普及啓発、遺族へのグリーフケア、妊婦へのサポート体制構築（入院費の経済的補助や託児所の整備）

●司法解剖・病理解剖における体制整備

- ・18歳未満の検視・検案を各小児科医療機関で受け入れる体制を構築、県民への病理解剖の必要性や正しい知識の啓発等

●小児救急医療体制の整備

- ・#8000を平日日中稼働することの検討、小児の救急車の適正利用の啓発、小児救急二次輪番ルールへの遵守等